

# 第 2 章

## 課題研究

# 1 研究の概要

## (1) テーマと目的

テーマ「協同学習をベースとした主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業実践」

平成31年2月に告示された学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の視点から学習過程の改善が求められている。これは、生きて働く知識・技能の習得などにより、新しい時代に求められる資質・能力を育成するため、質の高い理解を図るために学習過程を質的に改善していくことが必要である。第7次研究より協同学習をはじめとする本校の教育活動の成果として、生徒のコミュニケーション力が高められていることが裏付けられた。しかし、協同学習を取り入れることだけが「主体的・対話的で深い学び」を実現する唯一の方法とは言い切れない。

協同学習においては、話し合い活動が多くなるが、これを取り入れた授業実践は非常に多く、そこでは「対話的な学び」が深められた。また、生徒の興味・関心をくすぐるような題材や教材を用いた授業では「主体的な学び」が実現していた。しかし、協同学習によって「深い学び」が実現できていたのかどうかを検証するには至っていない。

よって第8次研究では、これまでの「協同学習」をベースとしつつ、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業展開や指導方法、教材教具を工夫することで「深い学び」を考察し実践することを目的とする。第8次研究1年次は、各教科等1本の授業実践を行った。その中で、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業実践を行った。また、STの活用方法についても検討し、振り返りレポートを各自が作成するまでを行った。2年次については、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を教員一人一人が行っていくことにした。

## (2) 仮説

協同学習をベースとした主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業実践を行うことで、生徒の課題解決能力を高め、キャリア発達を促すことができるのではないか。

## (3) 研究の方法

### ① 個人による授業実践

学年内の各教科・形態で担当する授業を割り振り、教員全員が1本授業実践を行う。

(表1) その際、第7次研究の「協同学習授業マニュアル」や「グループ研究の成果と課題」、第8次研究の1年次の振り返りを基に、授業の中で協同学習をベースとした学習内容を計画する。MTは「学習指導案(今年度研修部が作成した様式)」(別紙1)を使用した授業実践と「振り返りレポート(MT用)」(別紙2)を作成する。なお、MTを持たない進路外勤や教務主任、支援部部長、実習助手については、MTが作成した学習指導案を受けて行った指導に対する「振り返りレポート(ST用)」(別紙3)を作成する。研究授業の際は各学年の教職員1名と管理職のいずれか1名が必ず参観し、「授業参観者アンケート」(別紙4)を記入し授業者に渡す。

		1 学年	2 学年	3 学年
国 語		成田 石川	亀田	田中 (博) 矢倉
数 学		佐野	山本	村瀬
芸 術	音 楽	石田	/	/
	美 術	福井		
	体 育		津村	中市
生 活 単 元 学 習 総合的な探究 (学習) の時間		工藤	高山	海田
作 業 学 習	窯 業 科	田中 (龍)	内田	石井
	農 業 科	大槻	西脇	小原
	家 庭 総 合 科	初山	小林	/

表 1 学年別授業担当者一覧

② 教科・形態部会によるグループ研究

個人による授業実践でまとめられた「学習指導案」と「振り返りレポート (MT 用)」、  
「振り返りレポート (ST 用)」、「授業参観者アンケート」を基に、その教科・形態ご  
とに主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた指導についてまとめていく。(まとめ  
方については詳細が決まり次第全体周知する。)

(4) 研究の推進日程

個人の授業実践は、6～12月の中で学年ごとに計画を立てて行う。「学習指導案」と「振  
り返りレポート」は、作成するごとに研修部へ提出 (授業実践後1週間以内) する。

## 2 研究の実際、成果と課題

### (1) 個人研究

#### ① 個人研究の手順

1年次においては、各学年で全教科・領域等の研究ができるように研修部が中心に割り振りをした。授業者には、「主体的・対話的で深い学び」の観点と共同授業者の活用の仕方を具体的に記載した学習指導案の作成、授業実践後の振り返りレポートの作成を行った。学習指導案の作成にあたっては、第7次研究で行ってきた協同学習をベースとして作成をした。第7次研究の中で課題として上がっていた「深い学び」の観点についても、本単元を行うことで、他の場面でどのように生かすことができるのかを記入してもらうことで解消できつつあり、「主体的・対話的」な観点についてもさらに深まりつつある。今年度は共同授業者にも授業研究後に振り返りレポートの作成を行っている。そのためには、授業者の意図とねらいを理解した上で動かなければならないため、授業前の授業者と共同授業者の打ち合わせが自然と増えてきている。しかし、振り返りレポートの中で「もっと授業者と念入りな打ち合わせをしておくべきだった。」や「打ち合わせ不足で授業者の意図とは違う動きをしてしまった。」といった意見もまだ見られた。それを今回気付きとして感じる事ができたことに関しては、振り返りレポートを作成した成果であると考えられる。

2年次では、昨年度同様、各学年で全教科・領域等の研究ができるように研修部が中心となり割り振りを行った。昨年度と違い今年度は全職員の校内での研究授業に取り組んだ。授業研究を行うにあたって、「主体的・対話的で深い学び」の観点で単元の目標設定し、単元内の授業は「主体的・対話的で深い学び」のどの観点で取り組んでいるのかを明確にした。1年次については、目標設定や授業の構成について苦慮している場面も見られたが、2年次においては、3つの観点についての理解が深まったことで、具体的な目標設定や授業の構成、教科等横断的な視点での授業づくりができつつある。また、実践レポートについても、1年次においては、上記にもあるようにSTの活用について課題があったが、具体的な目標を設定することができたことで、効果的なSTの活用ができた。さらに、MTも昨年度は「〇〇をもっとすべきだった。」や「目標達成できなかった。」という声もあったが、今年度は、「的確な目標設定ができた。」や「〇〇をしたが、効果的ではなかったため今後は〇〇といった手立てで改善を図る。」といった次につながるようなレポートが多数あった。そのため、職員の中でも「主体的・対話的で深い学び」の視点がどの場面でも活用されることで授業内容や展開の改善が図られるようになった。また、今年度の研究を受けて、中教審答申から出ている「学習指導要領改訂の方向性」にも示されている3つの柱「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」が形になってきたことが成果である。しかし、その一方で、「主体的・対話的で深い学び」の目標達成のための指導方法や効果的な教材の乏しさも見受けられた。また、授業後の生徒の変容について評価している職員が少なかった。これらのことから、学年問わず教科間等での情報の共有や研修などをおして職員の専門性を高めていく必要があると感じる。

#### ② 授業研究の推進

1年次においては、第7次研究時に出た「研究授業での参観者が少なかった。」という課題を受けて今年度は各学年2名、管理職のいずれか1名の計7名が必ず参観できる体制を整えた。各学年の研修部を中心として、参観者が同一教員に偏りが出ずに、全職員が参観できるように割り振れたことは成果である。急な生徒指導等で参観できなかった授業研究も多少あったが、おおむね7名で参観することができた。また、参観者についても振り返

りレポートを「主体的・対話的で深い学び」の観点から項目を抽出し作成することで、授業者の意図やねらいについての疑問点や改善点等も含め、授業者に還元することができたことは成果である。

2年次においては、全職員が校内授業研究に取り組んだこともあり、昨年度より参観者については人数を減らして取り組んだ。参観者は各学年最低1名、管理職のいずれか1名の計4名以上の体制を整えた。授業の関係上、参観者が偏ってしまう学年もあったが、全職員が最低1回は参観できるように研修部中心に割り振ることができた。また、参観者においては、授業終了後に参観者振り返りレポートを記入し、「主体的・対話的で深い学び」の観点での成果や改善点、疑問点などを抽出してもらった。また、授業者においては、研究授業終了後には、授業の振り返りとして、取り入れた目標の反省、改善や授業全体をとおして今後の改善点などをレポートでまとめた。さらに、進路外勤や教務主任、コーディネーター、実習助手については、STの観点から「主体的・対話的で深い学び」の観点で授業に入り、レポートを作成している。

## (2) グループ研究

1年次においては、今年度のグループ研究では、「国語」「数学」「音楽」「体育」「美術」の5つの教科部会に新学習指導要領(パブリックコメント段階)について共通理解を図り、本校で活用している指導内容表の内容の見直し、精査を行った。また、今年度から作成しているシラバスが一目で分かるように単元配列表(案)を作成し、各単元の内容の確認、他教科等との横断的な学習をするために時期の確認、精選を行った。今年度は見直し、精査に留まったが、次年度以降については、実際にそれを活用し、実践した上でのさらなる検討が必要となる。しかし、今回の検討事項が精査されることで、教科等横断的な学習のつながりが視覚化されるとともに、指導の時期や内容が明確になり統一した指導ができるのではないかと考えている。

2年次においては、昨年度のグループ研究で作成した単元配列表(案)を基に授業実践を行った。単元配列表(案)のまとめについては、プロジェクト研究にて行う。また、指導内容表(改訂版)についても1学年から順次新学習指導要領に沿った内容で授業を行った。(2～3学年については今までの積み重ねもあるため、出来る範囲で行った。)

1学年の指導内容表については、内容に沿って授業を行った結果、目標としては適切であると判断するため、今年度の指導内容表を基に今後も授業実践に取り組んでいく。しかし、生徒の実態等によっては、改善、見直しが必要となる。2～3学年の指導内容表については、今後年次進行で内容の確認、精査を行っていく必要がある。